



▲腕自慢が集結した第1回東北チェーンソーアート競技大会。秋田杉の原木が見事な芸術作品に生まれ変わりました



▼メイン会場には、市商工会青年部・女性部ほか特産品などを直売する売店もなども出店、大勢の人出で賑わいました



▲地域づくりをテーマにした「水と緑の景観フォーラム」。講演では、阿仁根子地区の取り組みが事例として紹介されました



▶木の枝や端材を使ったアクセサリー作りを体験する子どもたち。このほか、緑化や環境保全など森林祭のテーマ沿ったコーナーに人気が集まっていました



▲「水と緑のふるさと秋田」を目指し、子どもたちから寺田知事に苗木がリレーされました



▲アトラクションを楽しむ参加者



▲寺田知事が植樹祭での協力者に感謝状を贈呈



▲期間中、11種1200本の苗木を植樹しました

寺田知事 「植樹祭の成功は皆さんの熱意の賜物」 124団体・個人に感謝状

お野立所前で行われた式典には、県知事ほか県や市の関係者、全国植樹祭での協力者・団体が出席。はじめに寺田知事が、「全国植樹祭が成功裡に終えられたことは皆さんの熱意の賜物。あらためてお礼申し上げます。県では、秋田県を日本で一番の水と緑の県にしようと、省エネはもちろん、ソーラーや地熱発電など新エネルギーの導入ほか、エネルギーを

使わないシステムなども作ろうと取り組んでいる。地球環境を守るためにぜひ協力を」と会場の参加者に呼びかけました。

この後、全国植樹祭の開催にあたり協力した学校や各団体・式典出演者、報道広報協力者など124団体・個人に寺田知事から感謝状が贈られ、また、全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植されたブナ、トチ、秋田スギなど6種類の樹木の苗木がリレーされました。続いて、▽生態系に配慮した水と緑を育む多様な森づくりを進める▽豊かな自然の恵みにより

第59回全国植樹祭開催記念「水と緑の森林祭」

「水と緑のふるさと秋田」を宣言

第59回全国植樹祭開催を記念する「水と緑の森林祭」が10月10日から13日までの日程で開かれ、各種展示や音楽祭、チェーンソーアート東北大会など多彩な催しで賑わいました。

12日には記念式典が行われ、寺田典城県知事が全国植樹祭での協力者・団体を表彰したほか、参加者とともに、「水と緑のふるさと秋田宣言」でさらなる森づくりの県民運動を展開することを誓いました。

培われてきた水と緑の文化を守り育てる、ことなどを内容とする『水と緑のふるさと秋田宣言』が読み上げられました。

秋田を水と緑のふるさとに 期間中も1200本を植樹

プログラム終了後は、一般参加者も含め植樹会場に移動、ミズナラやヤマモミジなどの広葉樹を植樹しました。期間中、11種1200本が植樹されました。

お野立所前のメイン会場では、緑化や環境保全、地域づくりをPRするコーナーなど多彩な展示が設けられたほか、中央駐車場ではチェーンソーアートの東北大会なども開かれ、訪れた人々は秋晴れの日を広大な公園を散策しながら楽しんでいました。

かまやつひろしさんが出演 「水と緑の音楽祭」

またこの日の午後は、『水と緑の音楽祭』が開かれ、大勢の音楽ファンが詰めかけました。エフエム秋田などで放送されているラジオ番組の公開録音として行われたもので、ゲストには、ミュージシャンのかまやつひろしさんが出

演し、ヒットナンバーの演奏で会場を楽しませました。

地域づくりについて考えました 「水と緑の景観フォーラム」

最終日の13日には、パークセンタ―研修室で景観や地域づくりについて考える「水と緑の景観フォーラム」が開かれ、市民ら約60人が参加し、講演やパネルディスカッションで地域づくり、人づくりについて理解を深めました。

このうち講演では、秋田県立大学生物資源学科教授の荒樋豊氏が「水と緑の景観まちづくり」と題し阿仁・根子集落で取り組んだ地域づくりの実例を紹介しました。根子では、荒樋氏の指導により住民が参加する「まちづくり元氣塾」が開かれ、根子番菜などの民俗文化や水芭蕉の群生地などの自然資源といった魅力を見出し、集落を維持保全する手立てが模索されています。

荒樋氏は、「今、『企画し、やり遂げる力』が問われている。高齢者を含めて住民が役割を分担し、地域の魅力を伝えようと努力すること、可能性が見えてくる」などと述べていました。